

3 危険物受入時の注意点

地下貯蔵タンクに危険物を受け入れ（荷卸し）する際に、危険物を漏えいさせたり、混油させてしまう事故が、県内でも毎年のように起きています。

単独荷卸しの場合を除き、受け入れ側、ローリー側の双方の危険物取扱者の立会いによる確認が大切です。

1 危険物受入時の注意点

- ① 受け入れ側、ローリー側双方の危険物取扱者による確認を行う。
- ② タンクに荷卸しする量及び油種が正しいかよく確認する。
- ③ 荷卸し前にバルブの開閉状態を確認する。

2 県内の事故事例

- ① ガソリンスタンドの灯油用の専用タンクに荷卸しを行う際、ローリー側の接続口を間違えたため、誤ってガソリンを卸してしまい混油、満量により20リットルを流出させてしまった。（H24）
- ② ガソリンスタンドの灯油用地下タンクに荷卸しを行う際、開く底弁を間違えたため、ガソリンを卸してしまい混油させてしまった。荷卸しの際、受け入れ側の担当者は立会い確認を行っていなかった。（H26）

※危険物が河川等に流出すると、その除去には多大な時間とお金がかかります。事故が起きないように、双方で注意しましょう。



誤操作によるローリーからの漏えいした例



ポンプでの重油のくみ上げ